

[原 著]

# 絶飲食患者の口腔ケアに関する患者と看護師の意識 ～口腔ケアマニュアル・アセスメントシートの効果～

The assessment of significance for patients and nurses  
concerning oral health care during fasting period

中村 千紘、松本 佳奈、高橋あかり、松浦 希美、上野 由夏

Chihiro Nakamura, Kana Matsumoto, Akari Takahashi, Nozomi Matsuura, Yuka Ueno

KKR札幌医療センター看護部 7階西病棟 Department of Nursing, KKR Sapporo Medical Center

キーワード：口腔ケア 口腔ケアアセスメントシート 意識変化

## I. はじめに

消化器外科疾患で絶飲食となる患者は、入院患者の約4割をしめている。絶飲食患者は唾液分泌の減少により口腔内の乾燥や自浄作用の減弱、免疫機能が低下し易感染状態となっている。また、高齢患者が多く加齢による嚥下機能の低下から誤嚥性肺炎を起こしやすい。特に術後の患者は麻酔薬の残存により誤嚥しやすく肺合併症のリスクを高めるため、高齢者や術後の患者は口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つことが重要である。ヘンダーソンは、「患者の口腔内の状態は看護ケアの質を最もよく表すもののひとつである。」<sup>1)</sup>と述べている。また中野らは、「口腔は全身の状態を反映し、口腔を清潔に保つことは健康の維持・疾病の回復にとって重要である。」<sup>2)</sup>と述べており、このことから口腔ケアが大切であると言える。しかし、当病棟では口腔ケアの方法やその評価を記録しておらず、口腔ケアの技術や方法が統一していないという現状がある。藤下らは、「口腔内のアセスメントは、適切な口腔ケアを行っていくために重要である。」<sup>3)</sup>と述べている。また、先行研究や文献から口腔ケアアセスメントシート（以下アセスメントシートとする）を用いることで、同一の視点で口腔内環境を評価でき、口腔内の清潔を保つことにつながる実証されている。そのため、現在の当病棟における口腔ケアの実態を明らかにするとともに、口腔ケアマニュアル・アセスメントシートを作成、使用することで看護師の口腔ケアに対する意識の変化を促し、看護ケアの充実・患者満足につなげて

いきたい。

## II. 研究方法

- 1) 調査期間：平成20年10月～平成21年3月
- 2) 対象：当院7階西病棟に入院中のイレウスや術後で絶飲食となる患者に口腔ケアを実施した病棟看護師26名、当院7階西病棟に入院中のイレウスや術後で絶飲食となる患者13名。
- 3) データ収集方法
  - ①当院の口腔ケアのマニュアルを参考に、口腔ケアのマニュアル（資料1）・アセスメントシート（資料2）を作成した。
  - ②勉強会を開催し、研究目的と作成した資料の周知徹底を図った。具体的には、口腔ケアの方法とオーラルバランスやトゥースペースト等の使用方法、口腔内の観察点やアセスメントの方法について説明した。
  - ③実際にアセスメントシートを使用してもらい、使用前後で口腔ケアに関するアンケートを実施し、看護師の口腔ケアに対する意識の変化を比較した。また、同時期に患者への口腔ケアに関するアンケートを実施した。

## III. 倫理的配慮

研究目的・方法についての同意書を作成する。参加は自由意志によるものであり、いずれの時点においても中断可能なこと、拒否による不利益がないことを書面・口頭にて説明し了承を得て署名を頂く。アンケー

ト調査は無記名とし、プライバシーを厳守して実施した。

IV. 結果

<看護師アンケート>

アセスメントシート使用前後のアンケート結果を以下にまとめる。

「口腔ケアの必要性を感じるか」という質問に対して、「感じる」という回答が1回目86%、2回目100%であった。また、「口腔ケアに関心があるか」という質問に対しては、「関心がある」という回答が、1回目76%、2回目88%であった。口腔ケアを行う目的は図1のような結果であった。

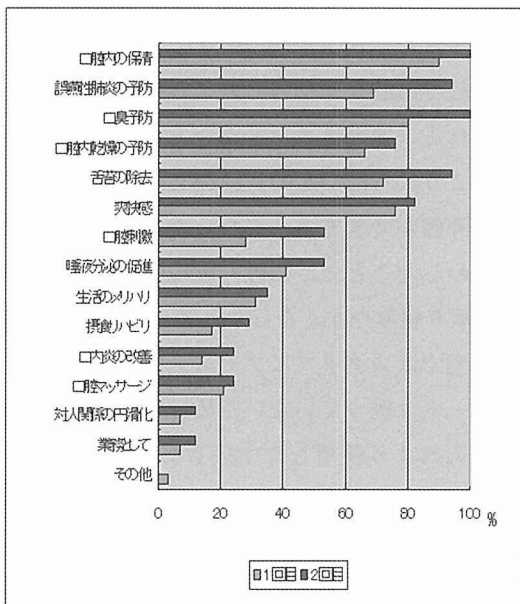


図1 口腔ケアを行う目的

「どんなに忙しくても口腔ケアを行うか」という質問に対しては、「必ず行なう」という回答が1回目7%、2回目24%、「行なわない」という回答が1回目4%、2回目0%であった。

「自力で口腔ケアができる患者に対して口腔ケア実施の確認をしているか」という質問に対して、「している」という回答が1回目38%、2回目41%であった。「していない」という回答が1回目62%、2回目59%であった。していない理由としては「自立している人だと聞くのを忘れてしまう」、「ADLが自立している人には確認する意識が低い」、「自分でしているだろうと思って」、「アセスメントシート使用后から、意識しているが忙しいと忘れてしまう」があげられた。

「口腔ケアの所要時間」は「1～5分未満」が1回

目85%、2回目88%、「5～10分未満」が1回目15%、2回目12%であった。

口腔ケアの方法に関しては図2のような結果が得られた。

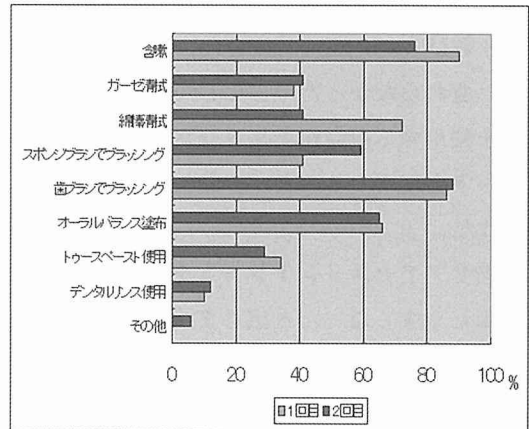


図2 口腔ケアの方法

「口腔ケアを負担な業務と感じるか」という質問に対しては、「全く負担ではない」、「非常に負担」という回答が1回目、2回目ともに0%、「あまり負担ではない」が1回目58%、2回目65%、「やや負担」が1回目42%、2回目35%であった。

「口腔ケアを実施して悩んだことがあるか」という質問に対しては、「ある」が1回目65%、2回目80%。「ない」が1回目35%、2回目20%であった。どのようなことに悩んだかに関しては、図3のような結果が得られた。

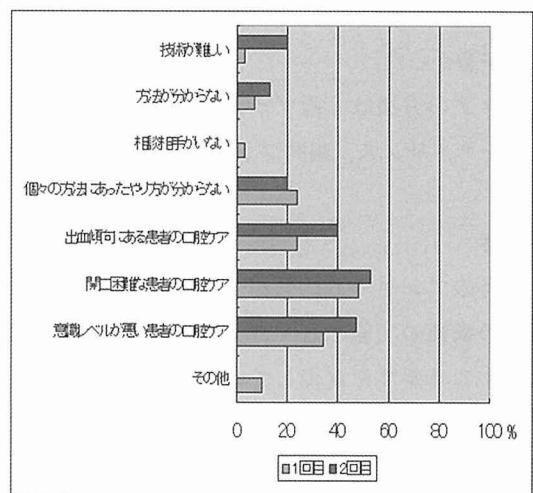


図3 口腔ケアのどのようなことに悩んだか

2回目のアンケート調査で、「口腔ケアアセスメントシートを使用したことで口腔ケアに対する意識が高まったか」という質問に対し、「意識が高まった」という回答が67%、「変わらなかった」という回答が33%であ

った。意識が高まった理由としては「自立している患者でもセルフケア状況を観察してみると口腔ケアが不十分な場合があり、適宜口腔ケアの説明や声かけが必要と感じた」と挙げたスタッフが多く、その他「口腔内を意識して観察するようになった」、「どのような所を観察すればよいか良く分かった」という意見が挙げられた。変わらなかった理由としては「アセスメントシートを使用する機会があまりなかった」、「アセスメントシートを使用することへの負担が少々あった」と挙げられた。

「口腔ケアアセスメントシートを使用し、口腔内環境を評価しやすくなったと感じますか」という質問に対し、「感じる」が67%、「どちらでもない」が20%、「感じない」が0%、「未使用」が13%であった。

#### ＜患者アンケート＞

「食事を取っていない場合でも、歯磨きが必要であると感じますか」という質問に対し、92%の患者が「感じる」と答えた。その理由としては、「歯垢がたまりそうで不潔感がある」、「ネバネバやザラザラするのが気持ち悪い」、「口臭が気になる」などの清潔に関するものと、「家でも毎日磨いているから習慣になっている」という意見もあった。「感じない」と答えた理由は「食事をとっていないから汚れないため」であった。

「口の中がどのような状態だと満足を感じるか」という質問に対しては、「口の中がネバネバしない」、「歯や舌がザラザラしない」、「口臭が気にならない」という意見が多かった。

口腔ケアの方法は、歯ブラシを使用する人が最も多く、デンタルリンス、歯間ブラシを使用する人もいた。

#### V. 考察

1回目のアンケート結果から、アセスメントシート使用前の病棟の実態として、一部のスタッフは口腔ケアに対する必要性を重視していなかったことや忙しいときには口腔ケアを行えていなかったこと、自立した患者への口腔ケア実施の確認をしていないスタッフが多かったことが分かった。しかし、2回目のアンケートではスタッフ全員が口腔ケアの必要性を感じるようになり、『自力で口腔ケアできる患者に対しても実施確認をする』・『忙しい中でも口腔ケアをする』と答えた看護師の割合が増え、口腔ケアに対する意識が高まったといえる。これは、今回の研究対象を介助の要・

不要に関わらず「絶飲食中患者」としたことで、自立した患者でも口腔ケアが不十分な場合があるということを知ることができ、自立した患者への口腔ケア実施確認をするスタッフが増えたことやアセスメントシートを使用したことでスムーズに口腔ケアを実施できるようになり、口腔ケアを負担と感じるスタッフが減ったことがスタッフの口腔ケアに対する意識を高めたのではないかと考えられる。

北嶋らは「ケアする際には手順を明確にし援助する者が統一した方法で継続することが重要であり効果的といえる。」<sup>4)</sup>と述べている。勉強会でアセスメントシートの使用方法を具体的に説明したことで口腔内の観察点が具体的となり、スタッフの経験年数に関わらず同一の視点で口腔内環境を評価することができるようになったと考えられ、今回の研究でアセスメントシートを使用して口腔ケアを行ったことは効果的であったと考えられる。アセスメントシートを1週間通して使用できるようにしたことで、前回との比較がしやすく口腔内の評価ができるようになった。また、舌の状態を図で表わしたことで、口腔内環境をイメージしやすくケアに取り組みやすくなったと考えられる。しかし、今回の研究ではスタッフにアセスメントシートに関するアンケートは取っていないため、今後スタッフの意見を取り入れより使用しやすいものにしていきたい。口腔ケアについてどのようなことに悩んだかという質問に対し、2回目のアンケートでは『相談相手がない』、『個々の方法にあったやり方が分からない』という項目が減っていた。これもアセスメントシートを使用したことにより口腔ケア方法が統一され、悩まずにケアを行うことができるようになったためだと考えられる。しかし、上記2項目を除きすべての項目で『悩んだことがある』というスタッフが増えている。これは、今回の研究を通してスタッフが口腔ケアについて再度考える機会となり、スタッフの口腔ケアに対する意識の高まったためと考えられる。しかし、今回の研究の中ではこれらの悩みを解消するような取り組みはしていなかったため、これらを解消しより充実したケアにつなげることが今後の課題である。口腔ケアの所要時間については、口腔ケアに対する意識の変化によって所要時間に変化がみられるのではないかと予想したが、大差ない結果が得られた。患者の状態によっても口腔ケアの方法が異なり、所要時間だけではケアの質は図れないため、患者に合った口腔ケア方法が必要

となると考えられる。

口腔ケアを行う目的については、2回目のアンケートで全項目において選択率が上昇した。これは、アンケートで口腔ケアの目的を自由記載ではなく、具体的に選択肢で挙げたことにより普段忘れがちであった口腔ケアの目的を再認識する機会になったためではないかと考えられる。中でも口腔内の清潔・口臭予防・舌苔の除去の項目を選択するスタッフが増えている。患者アンケートでも口腔ケアの必要性や満足度として清潔・口臭予防・舌苔の除去が挙げられており、患者の口腔ケアを行なう目的と看護師が口腔ケアを行なう目的が一致していたということが分かった。しかし、患者の中では歯間ブラシやデンタルリンスを使用するという回答がみられたが、看護師のアンケートではそれらを選択するスタッフが少なかった。この要因としては、口腔ケアマニュアルの必要物品に記載されていないことや患者の普段の口腔ケアの方法についてまで情報収集できていないことが考えられる。よって、看護師が単に日常生活援助として口腔ケアを行うのではなく、小さなケアでも患者と一緒に目的意識を持って行なっていくことや個別性に合わせて口腔ケアを行っていくことで看護ケアの充実・患者の口腔ケアに対する満足度も高まるのではないかと考えられる。

## VI. 結論

- ①スタッフの口腔ケアに対する意識が高まった。
- ②口腔ケアアセスメントシートを使用することで同一の視点で口腔内環境を評価できるようになった。
- ③今後も看護師が患者と一緒に目的意識を持ち、個別性に合わせた口腔ケアを行っていくことで看護ケアの充実・患者の口腔ケアに対する満足度を高めていく必要がある。

## 引用文献

1. ヴァージニア・ヘンダーソン. 看護の基本となるもの(改訂版). 湯牧ます、小玉香津子訳, 日本看護協会出版会, 2004, p14
2. 中野栄子、清潔ケアのエビデンス口腔内清潔ケア. 臨床看護 28:1987, 2000
3. 藤下典子、藤浪幸代. 看護臨床に役立つ口腔ケア, 病棟で看護師が行う口腔ケア. ナース専科23:105, 2003
4. 北嶋由香、他. 意識障害のある挿管中の患者の口腔ケア. 看護技術44(増):113, 1998

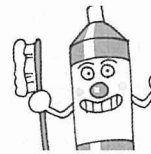
## 参考文献

1. 道重文子. 特集エビデンスが変えるケア最前線、今日からできる最新の看護を検証、口腔ケア. 月刊ナーシング23:42-48, 2003
2. 道重文子. 「口腔ケア」に関する研究の動向と今後の課題. 看護技術48:418-428, 2002
3. 永澤静代、本多和世、対馬春美. 口腔ケア徹底へ向けての一考察, 口腔ケアに対する看護師の意識変化. 第33回日本看護学会論文集成人看護I:164-166, 2003
4. 島美貴子、吉田三紀、松原直美. 口腔ケアチームの活動を通して口腔内清潔に維持・増進をはかる, チームメンバーの知識・技術の変化と口腔ケアアセスメントシートの活用. 第37回日本看護学会論文集看護総合:74-76, 2006
5. 仲亀聖子、羽生和子、他. 全身麻酔を受ける患者の口腔ケアに関する一考察. 第34回日本看護学会論文集看護総合:3-5, 2003
6. 藤原有子、藤原恵美子、他. 経口摂取をしていない患者にブラシを用いた口腔ケアの効果. 第36回日本看護学会論文集老年看護:91-93, 2006
7. 瀬戸一代、木場麻友. 口腔ケアにおける標準プロトコールの確立に向けて, 看護師の口腔ケアの適切な介入を目指して. 第36回日本看護学会論文集老年看護:124-126, 2006
8. 大津比呂志、松尾千春. 非経口摂取患者の口腔ケアの評価, アセスメントシートを作成して. 第37回日本看護学会論文集老年看護:230-232, 2007
9. 小山田幸子、小原志津子、他. 口腔乾燥に唾液腺マッサージを導入した効果. 第37回日本看護学会論文集看護総合:80-82, 2006

## 資料1



## 口腔ケア



## I. 目的

1. 口腔を清潔にする
2. 細菌の繁殖を防ぎ、二次感染を予防する
3. 気分を爽快にし、食欲を増す

## II. 必要物品

- ・ 歯ブラシ ・ 歯磨き剤 ・ コップ ・ ガーグルベースン ・ フェイスタオル ・ 手袋
- 以下は患者の状態に応じて準備するもの
- ・ ストローまたは吸い飲み ・ 吸引器、吸引チューブ ・ 舌圧子 ・ メインティップ
  - ・ スポンジブラシ ・ リップクリーム ・ トゥースペースト ・ オーラルバランス

## III. 実施方法

## &lt;部分介助の必要な患者の場合&gt;

1. 必要物品をオーバーベッドテーブルの上に置く。
2. 可能ならば患者を座位にする。座位が取れない場合は、枕を利用して顔を横に向ける。  
※患者に施行目的を説明し、納得を得てから施行する。口腔ケア中に反射的に唾液を誤嚥するのを防ぐため、座位を取れる患者はベッドを30度以上ギャッジアップする。
3. 患者の顎の下にフェイスタオルを広げ、ガーグルベースンを顔の側に置く。
4. 歯ブラシに歯磨き剤をつけ、患者に渡す。舌苔がある場合は舌ブラシもしくは歯ブラシで磨き除去する。
5. 磨き終わったら口腔内を十分にすすがせる。必要に応じて介助者は片手でガーグルベースンを支え、他方の手で患者に水を含ませすすがせる。
6. フェイスタオルで口の周囲を拭き、フェイスタオルを取り除く。
7. 患者を安楽な体位に整え、必要物品の後片付けをする。

## &lt;全介助の必要な患者の場合&gt;

1. 必要物品をオーバーベッドテーブルの上に置く。
2. 枕を利用し、患者の顔を介助者に向ける。患者の顎の下にフェイスタオルを広げ、ガーグルベースンを顔の側に置く。
3. 患者に口を開かせる（充分に開けない場合は舌圧子を使用する）。
4. 歯ブラシに歯磨き剤をつけ、歯・歯肉を丁寧に磨く。歯ブラシを使用できない場合はメインティップまたはスポンジブラシに水をつけ清拭する。舌苔がある場合は舌ブラシもしくは歯ブラシで磨き除去する。  
※スポンジブラシを使用法：スポンジ部分に水をつけ誤嚥を防ぐために少し絞り軽く濡れた状態にする。スポンジ部分の横腹でかきとるように回しながら動かす。使用中にスポンジ部分が不潔になったら、水で汚れを落としながら使用する。  
※口腔内が乾燥し歯磨き剤が刺激となる場合は、本人（または家族）の了承がえられればトゥースペーストを購入してもらい使用する。
5. 含嗽のできる患者は口腔内を十分にすすがせる。含嗽のできない患者は、顔を横に向けたまま、吸引しながら吸い飲みを用いて水を注入し、口腔内を洗浄する。  
※口腔内が乾燥している患者で本人（または家族）の了承がえられれば、オーラルバランスを購入してもらい塗布する。  
※口唇が乾燥している患者で本人（または家族）の了承がえられれば、リップクリームを購入してもらい塗布する。
6. フェイスタオルで口の周囲を拭き、フェイスタオルを取り除く。
7. 患者を安楽な体位に整え、必要物品の後片付けをする。

## 口腔ケアアセスメントシート

氏名 \_\_\_\_\_

KKR札幌医療センター7階西 H20.10 資料 2

月/日	/	/	/	/	/	/	/
口腔内の乾燥	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
舌苔	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
 舌苔の付着部位	 舌苔の付着部位	 舌苔の付着部位	 舌苔の付着部位	 舌苔の付着部位	 舌苔の付着部位	 舌苔の付着部位	 舌苔の付着部位
口臭	1・2・3	1・2・3	1・2・3	1・2・3	1・2・3	1・2・3	1・2・3
ケアの方法	・歯ブラシ ・スポンジブラシ ・綿棒 ・舌ブラシ ・歯間ブラシ ・デンタルリンス ・オーラルバランス ・その他 ( )	・歯ブラシ ・スポンジブラシ ・綿棒 ・舌ブラシ ・歯間ブラシ ・デンタルリンス ・オーラルバランス ・その他 ( )	・歯ブラシ ・スポンジブラシ ・綿棒 ・舌ブラシ ・歯間ブラシ ・デンタルリンス ・オーラルバランス ・その他 ( )	・歯ブラシ ・スポンジブラシ ・綿棒 ・舌ブラシ ・歯間ブラシ ・デンタルリンス ・オーラルバランス ・その他 ( )	・歯ブラシ ・スポンジブラシ ・綿棒 ・舌ブラシ ・歯間ブラシ ・デンタルリンス ・オーラルバランス ・その他 ( )	・歯ブラシ ・スポンジブラシ ・綿棒 ・舌ブラシ ・歯間ブラシ ・デンタルリンス ・オーラルバランス ・その他 ( )	・歯ブラシ ・スポンジブラシ ・綿棒 ・舌ブラシ ・歯間ブラシ ・デンタルリンス ・オーラルバランス ・その他 ( )
ケアの方法 アセスメント							
日勤サイン							

<口腔内の乾燥>

1. 唾液の分泌がほとんどなく、口腔内が乾燥している
2. 粘稠な唾液がみられ、口腔内がやや乾燥している
3. 正常で口腔内が適度に湿潤している
4. 唾液の分泌が過剰である

<舌苔>

1. なし
2. 舌の1/4にある
3. 舌の1/2にある
4. 舌全体にある

<口臭>

1. 特になし
2. 開口すると臭う
3. 開口しないでも臭う